

表 28 うつ傾向スケール (CES-D) (Q9-2)

CES-Dスケール	葛飾			大館・田代			合計			検定
	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	
平均値	679	6.98	4.10	374	6.10	3.65	1053	6.67	3.97	p<.001
男性	237	6.71	4.04	130	6.08	3.55	367	6.49	3.88	n.s.
女性	442	7.12	4.13	244	6.11	3.71	686	6.76	4.01	p<.01

各項目の頻度により、0~2 点の得点を与え足し上げてうつ傾向スケール (CES-D) とした。なお得点が高いほどうつ傾向を示し、最高点は 22 点である。

全体では 6.67 点であったが、地域的には「葛飾」は 6.98 点で、「大館・田代」は 6.10 点であり、「葛飾」の要介護者の方がうつ傾向が高くなっている。

また性別では、“男性”の全体は 6.47 点，“女性”の全体は 6.76 点で、地域的な有意差がでたのは“女性”で、「大館・田代」の女性は 6.11 点であるのに対して、「葛飾」の“女性”は 7.12 点と高得点となっている。

一般に都市部である「葛飾」の要介護者の方がうつ傾向が強く、とりわけ「葛飾」の“女性”でのうつ傾向が強いことがわかる。

## Q10 モラール (PCG)

表 29 モラール項目 (PCG) (Q10-1)

モラール項目	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
<b>人生が悪く</b>							
思う	334	48.5%	198	51.6%	532	49.6%	n.s.
思わない	355	51.5%	186	48.4%	541	50.4%	
<b>昨年と同じ元気</b>							
はい	308	44.4%	158	40.6%	466	43.0%	n.s.
いいえ	386	55.6%	231	59.4%	617	57.0%	
<b>気にする</b>							
はい	216	31.2%	97	25.1%	313	29.0%	p<.05
いいえ	476	68.8%	290	74.9%	766	71.0%	
<b>役に立たない</b>							
思う	523	75.5%	288	74.6%	811	75.2%	n.s.
思わない	170	24.5%	98	25.4%	268	24.8%	
<b>眠れない</b>							
ある	299	43.0%	143	36.9%	442	40.8%	p<.05
ない	396	57.0%	245	63.1%	641	59.2%	
<b>仕方がない</b>							
ある	174	25.0%	65	16.8%	239	22.1%	p<.01
あまりない	198	28.5%	128	33.2%	326	30.2%	
ない	323	46.5%	193	50.0%	516	47.7%	
<b>若い時と同じ幸福</b>							
はい	406	58.9%	233	61.2%	639	59.7%	n.s.
いいえ	283	41.1%	148	38.8%	431	40.3%	
<b>悲しいこと</b>							
はい	166	24.0%	93	24.1%	259	24.0%	n.s.
いいえ	525	76.0%	293	75.9%	818	76.0%	
<b>今の生活に満足</b>							
はい	524	75.7%	300	78.1%	824	76.6%	n.s.
いいえ	168	24.3%	84	21.9%	252	23.4%	
<b>深刻に考える</b>							
はい	239	34.5%	131	33.9%	370	34.3%	n.s.
いいえ	454	65.5%	255	66.1%	709	65.7%	

おろおろする

はい	167	24.1%	91	23.5%	258	23.9%	n.s.
いいえ	525	75.9%	296	76.5%	821	76.1%	

要介護高齢者の主観的な幸福感や日常生活への意欲や士気を測定するため、11項目からなるPCGモラールスケールを使用した。

地域的に有意な差が見られた項目は、“気にする(最近になって小さなことを気にするようになったと思いますか)”, “眠れない(心配だったり、気になったりして、眠れないことがありますか),” “仕方がない(生きていてもし方がないと思うことがありますか)”の3項目であり、いずれも「葛飾」の方が否定的な回答が多かった。

表 30 モラール・スケール (PCG) (Q10-2)

モラール・スケール	N	葛飾		大館・田代			合計		検定	
		mean	s.d.	N	mean	s.d.	N	Mean		s.d.
平均値	670	6.50	2.88	374	6.61	2.79	1044	6.54	2.85	n.s.
男性	234	6.76	2.85	133	6.69	2.80	367	6.74	2.83	n.s.
女性	436	6.36	2.89	241	6.57	2.78	677	6.44	2.86	n.s.

PCGモラール・スケールを得点化し、満点は11点で、点数が高いほど主観的な幸福感や日常生活への意欲が高い。

全体では6.54点で、“男性”の全体は6.74点、“女性”の全体は6.44点である。全体、男女別においても地域的な有意な差は見られなかった。

## Q11 食生活 (NSI)

表 31 食生活の項目 (NSI) (Q11-1)

食生活項目	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
病気で食変化							
はい	229	33.0%	87	22.4%	316	29.2%	p<.001
いいえ	465	67.0%	301	77.6%	766	70.8%	
1日1食							
はい	65	9.4%	30	7.7%	95	8.8%	n.s.
いいえ	630	90.6%	358	92.3%	988	91.2%	
果物・野菜など							
はい	633	91.1%	361	92.8%	994	91.7%	n.s.
いいえ	62	8.9%	28	7.2%	90	8.3%	
アルコール							
はい	28	4.0%	15	3.9%	43	4.0%	n.s.
いいえ	667	96.0%	373	96.1%	1040	96.0%	
歯の具合							
はい	183	26.4%	101	26.0%	284	26.3%	n.s.
いいえ	510	73.6%	287	74.0%	797	73.7%	
お金が気になる							
はい	83	12.0%	31	8.0%	114	10.6%	p<.05
いいえ	611	88.0%	355	92.0%	966	89.4%	
一人で食事							
はい	357	51.4%	189	48.7%	546	50.5%	n.s.
いいえ	337	48.6%	199	51.3%	536	49.5%	
3種類以上の薬							
はい	566	81.4%	270	69.8%	836	77.3%	p<.001
いいえ	129	18.6%	117	30.2%	246	22.7%	
体重変化							
はい	122	17.7%	46	11.9%	168	15.6%	p<.05
いいえ	569	82.3%	341	88.1%	910	84.4%	
食事のしたく							
はい	163	23.5%	56	14.4%	219	20.2%	p<.001
いいえ	532	76.5%	332	85.6%	864	79.8%	
食事しない							
はい	108	15.6%	51	13.1%	159	14.7%	n.s.
いいえ	586	84.4%	337	86.9%	923	85.3%	

食生活による健康状態を測定するため NSI スケールを使用して尋ねた。

各項目で健康に悪影響を及ぼすと考えられる回答を全体で見ると、高い順に、“3種類以上の薬（日に3種類以上の薬を飲んでますか）”は77.3%，“一人で食事（ひとりで食事をする事が多いですか）”は50.5%，“病気で食変化（最近、病気のために食べる物の種類や量が変わりましたか）”は29.2%，“歯の具合（歯や口の中の具合が悪いために、食べる事が困難なことがありますか）”は26.3%，“食事のしたく（体の具合が悪いために、食事のしたくができないことがありますか）”は20.2%，“体重変化（そうしようとしたわけでもないのに、この半年で体重が4~5kg以上変りましたか）”は15.6%，“食事をしない（体の具合が悪いために、食事をしないことがありますか）”は14.7%，“お金が気になる（お金の事が気になって、食べ物を買うのを控えることがありますか）”は10.6%，“1日1食（一日1食だけ、あるいは、まったく食べないことがありますか）”は8.8%，“果物・野菜など（果物や野菜、乳製品を食べていますか）”は8.3%，“アルコール（ビールやお酒、ワインなどのアルコール類をほとんど毎日3杯以上飲んでますか）”は4.0%となっている。

地域別に有意な差がでた項目は、“病気で食変化”、“お金が気になる”、“3種類以上の薬”、“体重変化”、“食事のしたく”で、いずれも「葛飾」の方が健康に悪影響を及ぼす回答が多い。

表 32 食生活スケール (NSI) (Q11-2)

NSIスケール	葛飾			大館・田代			合計			検定
	N	mean	s.d.	N	Mean	s.d.	N	mean	s.d.	
平均得点	685	2.75	1.57	382	2.27	1.39	1067	2.58	1.53	p<001
男性	240	2.62	1.59	133	2.15	1.37	373	2.45	1.53	p<.01
女性	445	2.83	1.56	249	2.34	1.40	694	2.65	1.52	p<.001

各項目で健康に悪影響を及ぼす回答に1点を与え、10点満点で加算した。点数が多いほど、健康に悪影響を及ぼす食生活をしていることを示している。

全体の平均得点は2.58点であるが、「葛飾」では2.75点、「大館・田代」は2.27点と、「葛飾」の要介護者の方が食生活での問題が多い。

性別で見ると、男女ともに「葛飾」しかでの得点が高く、「葛飾」では男女ともに、「大館・田代」に比べて食生活上の問題を持っていることがわかる。

## Q12 ADL

### 1) ADL項目

表 33 ADL項目 (Q12-1)

ADL項目	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
<b>入浴</b>							
自立	431	62.1%	234	60.0%	665	68.0%	p<.05
一部介助	138	19.9%	62	15.9%	94	9.6%	
全面介助	125	18.0%	94	24.1%	219	22.4%	
<b>階段昇降</b>							
自立	417	60.5%	219	56.4%	636	59.1%	n.s.
一部介助	118	17.1%	73	18.8%	191	17.7%	
全面介助	154	22.4%	96	24.7%	250	23.2%	
<b>着替え</b>							
自立	548	78.8%	313	80.3%	861	79.4%	n.s.
一部介助	93	13.4%	37	9.5%	130	12.0%	
全面介助	54	7.8%	40	10.3%	94	8.7%	
<b>歩行</b>							
自立	466	67.1%	291	74.6%	757	69.8%	p<.05
一部介助	129	18.6%	51	13.1%	180	16.6%	
全面介助	99	14.3%	48	12.3%	147	13.6%	
<b>室内移動</b>							
自立	591	85.0%	330	84.6%	921	84.9%	n.s.
一部介助	64	9.2%	29	7.4%	93	8.6%	
全面介助	40	5.8%	31	7.9%	71	6.5%	
<b>食事</b>							
自立	658	94.7%	371	95.1%	1029	94.8%	n.s.
一部介助	21	3.0%	12	3.1%	33	3.0%	
全面介助	16	2.3%	7	1.8%	23	2.1%	
<b>トイレ</b>							
自立	618	88.9%	345	88.5%	963	88.8%	n.s.
一部介助	39	5.6%	18	4.6%	57	5.3%	
全面介助	38	5.5%	27	6.9%	65	6.0%	
<b>整容</b>							
自立	609	87.6%	338	86.9%	947	87.4%	n.s.
一部介助	53	7.6%	25	6.4%	78	7.2%	
全面介助	33	4.7%	26	6.7%	59	5.4%	

排尿									
自立	629	90.5%	344	88.2%	973	89.7%	n.s.		
一部介助	29	4.2%	17	4.4%	46	4.2%			
全面介助	37	5.3%	29	7.4%	66	6.1%			
排便									
自立	620	89.2%	344	88.2%	964	88.8%	n.s.		
一部介助	36	5.2%	17	4.4%	53	4.9%			
全面介助	39	5.6%	29	7.4%	68	6.3%			

各項目の“一部介助”と“全面介助”を合わせた比率を全体で見ると、高い順に、“階段昇降”40.9%、“入浴”32.0%、“歩行”30.2%、“着替え”20.6%、“室内移動”15.1%、“整容”12.6%、“トイレ”11.2%、“排便”11.2%、“排尿”10.3%、“食事”5.2%となっている。

地域別に有意差がでた項目は、“入浴”と“歩行”で、“入浴”は「大館・田代」で“全面介助”の比率が24.1%と高く、一方“歩行”は「大館・田代」で“自立”が74.6%と高くなっている。

## 2) ADLスケール

表 34 ADLスケール (Q12-2)

ADLスケール	葛飾			大館・田代			合計			検定
	N	mean	s.d.	N	Mean	s.d.	N	mean	s.d.	
平均得点	689	17.12	4.56	387	16.93	4.92	1076	17.05	4.69	n.s.
男性	240	16.95	4.36	136	15.63	5.84	376	16.47	4.98	p<.05
女性	449	17.22	4.66	251	17.63	4.20	700	17.37	4.50	n.s.

ADLの各項目の回答に“全面介助”0点、“一部介助”1点、“自立”2点をあてて加算した。

全体の平均得点は17.05で、「葛飾」は17.12点、「大館・田代」は16.93点である。

性別での平均得点を見ると、男性全体では16.47点、女性全体では17.37点で、“女性”の方がADL得点が高い。

地域的な有意差がでたのは、“男性”の平均得点で、「大館・田代」が15.63点に対して、「葛飾」は16.95点と高くなっている。

### 3) ADL手助け

表 35 ADL手助け (Q12-3)

ADL手助け	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
入浴							
十分	236	89.7%	132	86.3%	368	88.5%	n.s.
もっと手助け	27	10.3%	21	13.7%	48	11.5%	
階段昇降							
十分	222	83.1%	128	77.1%	350	80.8%	
もっと手助け	45	16.9%	38	22.9%	83	19.2%	n.s.
着替え							
十分	130	88.4%	65	84.4%	195	87.1%	
もっと手助け	17	11.6%	12	15.6%	29	12.9%	n.s.
歩行							
十分	197	86.8%	81	73.0%	278	90.3%	
もっと手助け	30	15.2%	17	21.0%	47	16.9%	
室内移動							
十分	89	85.6%	51	85.0%	140	85.4%	n.s.
もっと手助け	15	14.4%	9	15.0%	24	14.6%	
食事							
十分	33	89.2%	19	100.0%	52	92.9%	n.s.
もっと手助け	4	10.8%	0	0.0%	4	7.1%	
トイレ							
十分	67	87.0%	41	91.1%	77	84.6%	n.s.
もっと手助け	10	13.0%	4	8.9%	14	15.4%	
整容							
十分	76	89.4%	45	88.2%	121	89.0%	n.s.
もっと手助け	9	10.6%	6	11.8%	15	11.0%	
排尿							
十分	58	89.2%	41	89.1%	99	68.3%	
もっと手助け	7	10.8%	5	10.9%	46	31.7%	n.s.
排便							
十分	65	87.8%	41	89.1%	106	88.3%	
もっと手助け	9	12.2%	5	10.9%	14	11.7%	n.s.

ADLの各項目に“一部介助”，“全面介助”と回答した人に対して，介助が“十分か”，“もっと手助けがほしいか”尋ねた。

全体で“もっと手助け”の比率は，高い順に，“排尿”31.7%，“階段昇降”19.2%，“歩行”16.9%，“トイレ”15.4%，“室内移動”14.6%，“着替え”12.9%，“排便”11.7%，“入浴”11.5%，“整容”11.0%，“



“食事” 7.1%となっている。

いずれの項目についても地域的な有意差はでなかった。

#### 4) ADL 障害の有無

表 36 ADL 障害の有無 (Q12-4)

ADL障害の有無	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
ADL障害あり	373	53.8%	212	54.6%	585	54.1%	n.s.
なし	320	46.2%	176	45.4%	496	45.9%	
合計	693	100.0%	388	100.0%	1081	100.0%	

ADL 項目のうち 1 項目でも“一部介助”，“全面介助”があれば，“ADL 障害あり”として見たのが，上の表である。

全体では“ADL 障害あり”が 54.1%，“ADL 障害なし”が 45.9%で，地域的な有意差は見られない。

## Q13 ADL 介護ネットワーク

### 1) ADL 介護ネットワーク

表 37 ADL 介護ネットワーク (Q13-1)

介護ネット(複答)	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
母数	373		212		585		
配偶者	175	46.9%	83	39.2%	258	44.1%	p<.05
同居の息子	66	17.7%	51	24.1%	117	20.0%	p<.05
同居の娘	53	14.2%	22	10.4%	75	12.8%	n.s.
同居の嫁	38	10.2%	65	30.7%	103	17.6%	p<.001
同居の婿	14	3.8%	5	2.4%	19	3.2%	n.s.
同居の孫	18	4.8%	18	8.5%	36	6.2%	n.s.
別居の息子	12	3.2%	2	0.9%	14	2.4%	n.s.
別居の娘	35	9.4%	11	5.2%	46	7.9%	p<.05
別居の嫁	7	1.9%	2	0.9%	9	1.5%	n.s.
別居の婿	2	0.5%	0	0.0%	2	0.3%	n.s.
別居の孫	5	1.3%	1	0.5%	6	1.0%	n.s.
兄弟	2	0.5%	0	0.0%	2	0.3%	n.s.
姉妹	4	1.1%	2	0.9%	6	1.0%	n.s.
その他親族	5	1.3%	5	2.4%	10	1.7%	n.s.
ホームヘルパー	150	40.2%	56	26.4%	206	35.2%	p<.001
家政婦お手伝い	6	1.6%	1	0.5%	7	1.2%	n.s.
ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	n.s.
友人・知人	7	1.9%	0	0.0%	7	1.2%	p<.05
近所の人	3	0.8%	0	0.0%	3	0.5%	n.s.
その他	19	5.1%	28	13.2%	47	8.0%	p<.01
いない	5	1.3%	9	4.2%	14	2.4%	p<.05

ADL の項目に関する手助けをしてくれる人について複数回答で尋ねた。

全体では、“配偶者” 44.1%，“ホームヘルパー” 35.2%，“同居の息子” 20.0%，“同居の嫁” 17.6%，“同居の娘” 12.8%と高くなっている。いずれも同居している家族員が多くて、ADL 介護のネットワークはほとんど家族内で形成され、要介護者の世帯形態に依存すると考えられる。

地域的な有意差がみられ、相対的に「葛飾」が多かったのは、“配偶者”、“別居の娘”、“ホームヘルパー”であり、相対的に「大館・田代」が多かったのは、“同居の息子”、“同居の嫁”であり、こうした傾向は同居形態の地域的な違いと相応している。

## 2) ADL 介護の主たる介護者

表 38 ADL 介護の主たる介護者 (Q13-2)

ADL主たる介護者	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
配偶者	168	45.0%	78	36.8%	246	42.1%	p<.05
同居の息子	32	8.6%	16	7.5%	48	8.2%	n.s.
同居の娘	44	11.8%	18	8.5%	62	10.6%	n.s.
同居の嫁	32	8.6%	47	22.2%	79	13.5%	p<.001
同居の婿	1	0.3%	0	0.0%	1	0.2%	n.s.
同居の孫	1	0.3%	2	0.9%	3	0.5%	n.s.
別居の息子	5	1.3%	1	0.5%	6	1.0%	n.s.
別居の娘	13	3.5%	5	2.4%	18	3.1%	n.s.
別居の嫁	2	0.5%	0	0.0%	2	0.3%	n.s.
別居の婿	1	0.3%	0	0.0%	1	0.2%	n.s.
別居の孫	2	0.5%	0	0.0%	2	0.3%	n.s.
兄弟	2	0.5%	0	0.0%	2	0.3%	n.s.
姉妹	1	0.3%	1	0.5%	2	0.3%	n.s.
その他親族	1	0.3%	3	1.4%	4	0.7%	n.s.
ホームヘルパー	83	22.3%	31	14.6%	114	19.5%	p<.05
家政婦お手洗い	3	0.8%	0	0.0%	3	0.5%	n.s.
ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
友人・知人	3	0.8%	0	0.0%	3	0.5%	n.s.
近所の人	2	0.5%	0	0.0%	2	0.3%	n.s.
その他	7	1.9%	11	5.2%	18	3.1%	p<.05
いない	5	1.3%	9	4.2%	14	2.4%	p<.05

ADL 介護の主たる介護者を尋ねた。

全体では“配偶者” 42.1%，“ホームヘルパー” 19.5%，“同居の嫁” 13.5%，“同居の娘” 10.6%の順に高くなっている。

地域別に有意差がでた主たる介護者は，“配偶者”，“同居の嫁”，“ホームヘルパー”で，“配偶者”と“ホームヘルパー”は「葛飾」で相対的に高く，一方“同居の嫁”は「大館・田代」で高くなっている。

## Q14 IADL

### 1) IADL項目（している・していない）

表 39 IADL項目（している・していない）(Q14-1)

IADL項目1	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
<b>部屋の掃除</b>							
している	163	23.5%	123	31.5%	286	26.4%	p<.01
していない	532	76.5%	267	68.5%	799	73.6%	
<b>衣類の洗濯</b>							
している	281	40.4%	169	43.3%	450	41.5%	n.s.
していない	414	59.6%	221	56.7%	635	58.5%	
<b>買い物</b>							
している	220	31.7%	91	23.3%	311	28.7%	p<.01
していない	475	68.3%	299	76.7%	774	71.3%	
<b>食事のしたく</b>							
している	267	38.4%	141	36.2%	408	37.6%	n.s.
していない	428	61.6%	249	63.8%	677	62.4%	
<b>請求書の支払い</b>							
している	352	50.6%	183	46.9%	535	49.3%	n.s.
していない	343	49.4%	207	53.1%	550	50.7%	
<b>電話</b>							
している	531	76.4%	260	66.7%	791	72.9%	p<.001
していない	164	23.6%	130	33.3%	294	27.1%	
<b>服薬</b>							
している	581	83.8%	326	83.6%	907	83.7%	n.s.
していない	112	16.2%	64	16.4%	176	16.3%	
<b>ひとりで外出</b>							
している	201	29.0%	112	28.7%	313	28.9%	n.s.
していない	493	71.0%	278	71.3%	771	71.1%	

8項目からなる手段的日常生活行為 (IDAL) について、“している”、“していない”で尋ねた。

“していない”という回答の比率を見ると、高いものは、“部屋の掃除”73.6%、“買い物”71.3%、“ひとりで外出”71.1%、“食事のしたく”62.4%、“衣類の洗濯”58.5%、“請求書の支払い”50.7%であり、低いものは“電話”27.1%、“服薬”16.3%、となっている。“していない”が高率の項目については日常生活に欠かせない行為であるが、他者に任せることができる行為もあるため、そうした人の存在に左右される。一方低率の項目は他者

に援助されても任せられない行為である。ただ“ひとりで外出”を“していない”はおよそ7割を占めている。

地域的な有意差がでた項目は、“部屋の掃除”，“買い物”，“電話”で，“していない”の比率が相対的に高いのは，“部屋の掃除”は「葛飾」，“買い物”，“電話”は「大館・田代」となっている。

## 2) IADL項目（できる・できない）

表 40 IADL項目（できる・できない）(Q14-2)

IADL項目2	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
<b>部屋の掃除</b>							
できる	264	38.0%	193	49.6%	457	42.2%	p<.001
できない	430	62.0%	196	50.4%	625	57.8%	
<b>衣類の洗濯</b>							
できる	362	52.2%	223	57.3%	585	54.1%	n.s.
できない	331	47.8%	166	42.7%	497	45.9%	
<b>買い物</b>							
できる	294	42.5%	153	39.4%	447	41.4%	n.s.
できない	397	57.5%	235	60.6%	632	58.6%	
<b>食事のしたく</b>							
できる	334	48.3%	191	49.4%	525	48.7%	n.s.
できない	357	51.7%	196	50.6%	553	51.3%	
<b>請求書の支払い</b>							
できる	433	62.7%	225	57.7%	658	60.9%	n.s.
できない	258	37.3%	165	42.3%	423	39.1%	
<b>電話</b>							
できる	576	83.4%	295	75.6%	871	80.6%	p<.01
できない	115	16.6%	95	24.4%	210	19.4%	
<b>服薬</b>							
できる	601	87.1%	342	87.7%	943	87.3%	n.s.
できない	89	12.9%	48	12.3%	137	12.7%	
<b>ひとりで外出</b>							
できる	249	36.2%	152	39.3%	401	37.3%	n.s.
できない	439	63.8%	235	60.7%	674	62.7%	

前問で“していない”と回答した人に対して、その行為を“できる”，“できない”で答えてもらい、前問で“している”と回答した人は“できる”として、集計した。

全体で“できない”の占める比率は，“部屋の掃除”57.8%，“衣類の洗濯”45.9%，“買い物”58.6%，“食事のしたく”51.3%，“請求書の支払い”39.1%，“電話”19.4%，“服薬”12.7%，“ひとりで外出”62.7%となっている。“ひとりで外出”62.7%，“買い物”58.6%，“部屋の掃除”57.8%が5割を超えている。

地域的な有意差では、“部屋の掃除”は「葛飾」の方が“できない”が多く、“電話は”「大館・田代」の方が“できない”が多くなっている。

### 3) IADL項目(十分・手助け・必要ない)

表 41 (十分・手助け・必要ない)(Q14-3)

IADL項目3	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
<b>部屋の掃除</b>							
十分	433	62.9%	182	46.7%	615	57.1%	p<.001
もっと手助け	70	10.2%	40	10.3%	110	10.2%	
必要ない	185	26.9%	168	43.1%	353	32.7%	
<b>衣類の洗濯</b>							
十分	430	62.8%	196	46.7%	626	69.2%	p<.001
もっと手助け	55	11.3%	24	10.9%	79	11.2%	
必要ない	200	21.7%	168	25.6%	368	32.3%	
<b>買い物</b>							
十分	436	63.4%	186	47.8%	622	57.8%	p<.001
もっと手助け	62	9.0%	31	8.0%	93	8.6%	
必要ない	190	27.6%	172	44.2%	362	33.6%	
<b>食事のしたく</b>							
十分	420	61.2%	178	45.6%	598	55.6%	p<.001
もっと手助け	64	9.3%	26	6.7%	90	8.4%	
必要ない	202	29.4%	186	47.7%	388	36.1%	
<b>請求書の支払い</b>							
十分	462	67.4%	210	54.0%	672	62.6%	p<.001
もっと手助け	24	3.5%	16	4.1%	40	3.7%	
必要ない	199	29.1%	163	41.9%	362	33.7%	
<b>電話</b>							
十分	499	73.3%	279	71.7%	778	72.7%	n.s.
もっと手助け	20	2.9%	14	3.6%	34	3.2%	
必要ない	162	23.8%	96	24.7%	258	24.1%	
<b>服薬</b>							
十分	539	78.7%	298	76.6%	837	77.9%	n.s.
もっと手助け	14	2.0%	8	2.1%	22	2.0%	
必要ない	132	19.3%	83	21.3%	215	20.0%	
<b>ひとりで外出</b>							
十分	404	59.0%	175	44.9%	579	53.9%	p<.001
もっと手助け	109	15.9%	38	9.7%	147	13.7%	
必要ない	172	25.1%	177	45.4%	349	32.5%	

各 IADL 項目について、「手助けが十分ですか、もっと手助けがほしいですか、する必要がありませんか」を尋ねた。

“もっと手助け”の全体での比率は，“部屋の掃除” 10.2%，“衣類の洗濯” 11.2%，“買い物” 8.6%，“食事のしたく” 8.4%，“請求書の支払い” 3.7%，“電話” 3.2%，“服薬” 2.0%，“ひとりで外出” 13.7%となっている。

地域的な有意差については，“十分”，“必要ない”の比率に引張られたためと思われるが，“部屋の掃除”，“衣類の洗濯”，“買い物”，“食事のしたく”，“請求書の支払い”，“ひとりで外出”で有意差がでている。“”

#### 4) IADL スケール

表 42 IADL スケール (Q14-4)

IADLスケール	N	葛飾		大館・田代			合計			検定
		mean	s.d.	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	
平均得点	692	3.74	2.51	390	3.60	2.54	1082	3.69	2.52	n.s.
男性	241	3.02	2.36	136	2.49	2.04	377	2.83	2.26	p<.05
女性	451	4.13	2.51	254	4.20	2.58	705	4.15	2.53	n.s.

各 IADL 項目で“している”に1点，“していない”に0点を加算して，8点を満点として得点化した。全体の平均得点は3.69点，“男性”の平均得点は2.83点，“女性”の平均得点は4.15点である。

“男性”の平均得点で地域的な有意差がでて，“葛飾”では3.02点，“大館・田代”では2.49点となっている。“大館・田代”の“男性”がもっとも平均得点が低い。

#### 5) IADL 障害の有無

表 43 IADL 障害の有無 (Q14-5)

IADL障害の有無	N	葛飾		大館・田代		合計		検定
		N	%	N	%	N	%	
障害あり	556	80.2%	302	77.6%	858	79.3%	n.s.	
障害なし	137	19.8%	87	22.4%	224	20.7%		
合計	693	100.0%	389	100.0%	1082	100.0%		

IADL 項目のうち1つでも“できない”があれば，“IADL 障害あり”として集計した。全体では“障害あり”が8割を占めているが，地域的な有意差は見られない。

## Q15 家事を止めた理由

表 44 家事を止めた理由 (Q15)

家事を止めた理由(複答)	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
総数	603		337		940		
健康状態の悪化	499	82.8%	260	77.2%	759	80.7%	p<.05
子供の結婚	7	1.2%	0	0.0%	7	0.7%	p<.05
配偶者の死亡	23	3.8%	6	1.8%	29	3.1%	n.s.
介護者と同居	27	4.5%	41	12.2%	68	7.2%	p<.001
もともと自分ではしていない	99	16.4%	104	30.9%	203	21.6%	p<.001
その他	14	2.3%	13	3.9%	27	2.9%	n.s.

「家事を自分以外の方がするようになったきっかけ」を複数回答で尋ねた。

全体では、“健康状態の悪化” 80.7%，“もともと自分ではしていない” 21.6%が高率である。

地域的には，“健康状態の悪化”，“子供の結婚”は「葛飾」の方が高く，“介護者と同居”，“もともと自分ではしていない”は「大館・田代」の方が高くなっている。家事とIADL項目への援助という意味では，やはり同居や家族形態が影響すると思われる。



## Q16 IADL 介護のネットワーク

### 1) IADL 介護のネットワーク

表 45 IADL 介護のネットワーク (Q16)

IADL 介護ネット (複答)	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
母数	554		301		855		
配偶者	224	40.4%	113	37.5%	337	39.4%	n.s.
同居の息子	80	14.4%	78	25.9%	158	18.5%	p<.001
同居の娘	72	13.0%	27	9.0%	99	11.6%	n.s.
同居の嫁	65	11.7%	101	33.6%	166	19.4%	p<.001
同居の婿	15	2.7%	4	1.3%	19	2.2%	n.s.
同居の孫	19	3.4%	22	7.3%	41	4.8%	p<.05
別居の息子	27	4.9%	4	1.3%	31	3.6%	p<.01
別居の娘	73	13.2%	23	7.6%	96	11.2%	p<.05
別居の嫁	18	3.2%	6	2.0%	24	2.8%	n.s.
別居の婿	5	0.9%	1	0.3%	6	0.7%	n.s.
別居の孫	8	1.4%	4	1.3%	12	1.4%	n.s.
兄弟	2	0.4%	2	0.7%	4	0.5%	n.s.
姉妹	7	1.3%	4	1.3%	11	1.3%	n.s.
その他親族	11	2.0%	10	3.3%	21	2.5%	n.s.
ホームヘルパー	235	42.4%	80	26.6%	315	36.8%	p<.001
家政婦お手伝い	5	0.9%	1	0.3%	6	0.7%	n.s.
ボランティア	1	0.2%	1	0.3%	2	0.2%	n.s.
友人・知人	12	2.2%	2	0.7%	14	1.6%	n.s.
近所の人	10	1.8%	3	1.0%	13	1.5%	n.s.
その他	6	1.1%	12	4.0%	18	2.1%	p<.01
いない	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%	n.s.

IADL 項目への手助けをしている人について、複数回答で尋ねた。

全体では、比率の高い順に、“配偶者” 39.4%，“ホームヘルパー” 36.8%，“同居の嫁” 19.4%，“同居の息子” 18.5%，“同居の娘” 11.6%，“別居の娘” 11.2%となっている。

地域的な有意差では、「葛飾」で比率が高かったのは、「別居の息子」，“別居の娘”，“ホームヘルパー”で、一方「大館・田代」で比率が高かったのは“同居の息子”，“同居の嫁”，“同居の孫”であった。すなわち「葛飾」では IADL 項目への援助に別居子が参加しているのが特徴であり、一方「大館・田代」では同居家族が主体となっている。

## 2) IADL 介護の主たる介護者

表 46 IADL 介護の主たる介護者 (Q16-2)

IADL主たる介護者(複答)	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
配偶者	211	38.1%	105	34.9%	316	37.0%	n.s.
同居の息子	37	6.7%	32	10.6%	69	8.1%	p<.05
同居の娘	58	10.5%	25	8.3%	83	9.7%	n.s.
同居の嫁	53	9.6%	74	24.6%	127	14.9%	p<.001
同居の婿	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%	n.s.
同居の孫	3	0.5%	6	2.0%	9	1.1%	n.s.
別居の息子	10	1.8%	0	0.0%	10	1.2%	p<.05
別居の娘	28	5.1%	14	4.7%	42	4.9%	n.s.
別居の嫁	7	1.3%	1	0.3%	8	0.9%	n.s.
別居の婿	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%	n.s.
別居の孫	2	0.4%	1	0.3%	3	0.4%	n.s.
兄弟	2	0.4%	1	0.3%	3	0.4%	n.s.
姉妹	1	0.2%	3	1.0%	4	0.5%	n.s.
その他親族	4	0.7%	3	1.0%	7	0.8%	n.s.
ホームヘルパー	159	28.7%	54	17.9%	213	24.9%	p<.001
家政婦お手伝い	4	0.7%	0	0.0%	4	0.5%	n.s.
ボランティア	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
友人・知人	4	0.7%	1	0.3%	5	0.6%	n.s.
近所の人	3	0.5%	1	0.3%	4	0.5%	n.s.
その他	1	0.2%	0	0.0%	1	0.1%	n.s.
いない	2	0.4%	0	0.0%	2	0.2%	n.s.

IADL 項目への手助けに対して、主たる介護者を尋ねた。

全体では、高い順に“配偶者” 37.0%，“ホームヘルパー” 24.9%，“同居の嫁” 14.9%となっている。

地域的な違いについては、「葛飾」で“別居の息子”，“ホームヘルパー” の比率が有意に高く，一方「大館・田代」では“同居の息子”，“同居の嫁” が高くなっている。

## Q17 IADL

表 47 老研式 IADL 項目 (Q17-1)

老研式項目(一部)	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
預金の出し入れ							
はい	308	44.3%	178	45.6%	486	44.8%	n.s.
いいえ	387	55.7%	212	54.4%	599	55.2%	
年金書類書き							
はい	362	52.2%	185	47.6%	547	50.6%	n.s.
いいえ	331	47.8%	204	52.4%	535	49.4%	
新聞							
はい	468	67.4%	282	72.3%	750	69.2%	n.s.
いいえ	226	32.6%	108	27.7%	334	30.8%	
本や雑誌の読書							
はい	360	51.8%	182	46.8%	542	50.0%	n.s.
いいえ	335	48.2%	207	53.2%	542	50.0%	
健康への関心							
はい	530	76.3%	266	68.4%	796	73.4%	p<.01
いいえ	165	23.7%	123	31.6%	288	26.6%	
友人訪問							
はい	164	23.6%	133	34.2%	297	27.4%	p<.001
いいえ	531	76.4%	256	65.8%	787	72.6%	
相談にのる							
はい	250	36.0%	126	32.4%	376	34.7%	n.s.
いいえ	444	64.0%	263	67.6%	707	65.3%	
見舞い							
はい	216	31.2%	160	41.1%	376	34.8%	p<.001
いいえ	477	68.8%	229	58.9%	706	65.2%	
若い人に話							
はい	330	47.6%	167	42.9%	497	45.9%	n.s.
いいえ	364	52.4%	222	57.1%	586	54.1%	

老研式 IADL は 13 項目からなる構成されるが、Q14 に含まれた 4 項目以外の 9 項目について尋ねた。

全体で“いいえ”の比率が高かったものは、“友人訪問” 72.6%，“相談にのる” 65.3%，“見まい” 65.2%で、50%台前後は“預金の出し入れ” 55.2%，“若い人に話” 54.1%，“本や雑誌の読書” 50.0%，“年金書類書き” 49.4%、20～30%台は“新聞” 30.8%，“健康への関心” 26.6%である。

地域的な有意差については、“いいえ”で「葛飾」が相対的に高い項目は、“友人訪問”、“見舞い”であり、「大館・田代」は“健康への関心”が高くなっている。

表 48 老研式 IADL スケール (Q17-2)

老研式IADLスケール	葛飾			大館・田代			合計			検定
	N	mean	s.d.	N	mean	s.d.	N	Mean	s.d.	
平均得点	695	5.80	3.67	390	5.66	3.64	1085	5.75	3.66	n.s.
男性	242	5.50	3.60	136	5.05	3.21	378	5.34	3.47	n.s.
女性	453	5.96	3.71	254	5.98	3.81	707	5.96	3.74	n.s.

Q14の4項目を加えた13項目について、“している”、“はい”に1点を充て得点化した。満点は13点である。全体の平均得点は5.75点で、“男性”5.34点、“女性”5.96点であった。地域的な有意な差は見られない。

## Q17 同居家族と顔合わせ

表 49 同居家族と顔合わせ (Q18)

同居家族と顔合わせ	葛飾		大館・田代		合計		検定
	N	%	N	%	N	%	
はい	456	95.8%	275	98.6%	731	96.8%	p<.05
いいえ	20	4.2%	4	1.4%	24	3.2%	
合計	476	2.9%	279	1.0%	755	2.2%	

「同居している家族全員と、一日1回くらいは顔を合わせていますか」と尋ねた。全体では“はい”が96.8%で、“いいえ”は3.2%であった。地域別では、「葛飾」で“いいえ”が4.2%、「大館・田代」で1.4%と有意な差が見られた。